森六

インド市場の開拓に重点

森六はグローバル市場での攻勢を強めている。半導体関連事業を優先的に開拓。半導体向けフィルムや高性能キャリアテープへの採用が期待されるカーボンナノチューブ（CNT）などの有望商材を軸に展開を急ぐ。さらに、韓国での電気自動車向け電池材料の量産化準備やアフリカでの多角的なアプローチなど、今後を見据えた成長基盤を着実に構築していく。

森六の2026年度上半期決算は、ホルムズ危機に起因する石油化学製品の価格上昇により売上拡大の下支えとなった。半導体関連やモビリティ分野、子会社の四国化工におけるフィルム製造が前年を上回る推移を見せた。

インドでは樹脂原料関連の事業が軌道に乗り、確実に収益が見込める体制へと成長してきた。マレーシアでも、半導体向け化学品の絞り込みや今後の事業拡大に向けた準備を進めている。

一方で、マレーシアと比較してサプライチェーン構築や製品展開が本格的な加速フェーズに入っているインド市場を優先的に攻める方針を固めた。四国化工の半導体向け多層クリーンフィルム「APTCLEAN（アプトクリーン）」や半導体製造装置の付帯設備、高性能キャリアテープ向けCNTなどの商材を軸に積極的な戦略をとる。

韓国では合弁会社のナモケムが電池材料の認証を取得し、量産開始へ準備を進める。生産能力の拡大を視野に入れながら、日系や欧米系メーカーへの展開も検討する。

アフリカでは、モロッコを中心に複数の商材で具体的なアプローチが進む。稚魚の死亡率を改善する養殖魚用飼料事業では、モロッコで開催される国際水産関連の展示会出展が決定。南アフリカではアジア製の安価な塗料用原料の評価が進められており、採用に至れば早期の売上貢献が期待される。さらに、欧州系自動車メーカーの生産が盛んなモロッコ地域でも、部品メーカーとの連携を通じて原料のスペックインを目指すなど、多様な取り組みで事業拡大を図る。

掲載内容（画像・文章等）の一部及び全てについて、無断で複製、転載、転用、改変等を禁じます。